

考試科目	日文	系所別	外交學系	考試時間	2月18日(一)第三節
------	----	-----	------	------	-------------

第一題：請先閱讀以下文章，並將全文翻譯為中文。(30%)

(社説) IWC 脱退 国際協調に影を落とす

結論も、そこに至る議論の過程も納得できない。

政府が国際捕鯨委員会 (IWC) からの脱退を決めた。来年7月から、日本の領海と排他的経済水域内で、商業捕鯨を再開するという。

IWCは、鯨の保存(保護)とともに、捕鯨産業の秩序ある発展を目的としている。資源量の多寡にかかわらず捕鯨を否定する反捕鯨国の主張は、確かに条約の趣旨から逸脱している。

だが、日本は各国間で主張の相違があっても、国際協調主義や法の支配を基本において、問題の解決にあたる姿勢をとってきたはずだ。自国の主張が通らないからといって、国際条約から脱退するという判断はこれに背く。日本の外交にマイナスの影響を与えかねない。

漁業に限ってみても、資源の国際管理は重要性を増している。国際協調を軽視すると見られれば、今後の交渉での不利益につながる懸念もある。

今回の決定に伴い、日本は南極海などでの調査捕鯨を期間の途中で中止する。調査捕鯨は事実上の商業捕鯨と批判され、2014年には国際司法裁判所で「科学目的とはいえない」とされて敗訴したが、捕獲頭数を減らすなどして再開していた。

(中略)

今回の脱退決定にあたって政府は国民に開かれた議論を避けてきた。9月のIWC総会で、商業捕鯨のモラトリアム(一時停止)を限定的に解除するという日本提案が否決された後、政府は「あらゆるオプションを検討する」との説明を繰り返すだけだった。そのまま脱退を閣議決定し、翌日公表した。

国会での突っ込んだ議論はなく、審議会などのプロセスも経ていない。現段階でも、商業捕鯨再開後の捕獲頭数は「IWCで採択された方式により算定する」とするだけで、具体像が示されていない状況だ。

様々な論点が残るにもかかわらず、なぜ性急に脱退に突き進んだのか。説明が求められる。

出處：2018年12月27日朝日新聞社論

備

註

- 一、作答於試題上者，不予計分。
- 二、試題請隨卷繳交。

考試科目	日文	系所別	外交學系	考試時間	2月18日(一)第三節
------	----	-----	------	------	-------------

第二題：請先閱讀以下文章，並將全文翻譯為日文。(30%)

日本首相安倍晉三明天將啟程前往中國北京進行為期 3 天的訪問，26 日與中國國家主席習近平舉行高峰會，此行日本財經界人士逾 500 人隨行。

安倍預定明天從東京啟程前往北京，出席中日和平友好條約締結 40 週年紀念活動。26 日與中國國務院總理李克強會談並出席午餐會、訪問北京大學、出席「中日第 3 方市場合作論壇」、與習近平舉行高峰會、出席習近平主辦的晚宴，27 日由北京出發返國。

安倍此行與習近平、李克強會談時，將探討北韓的非核化議題，確認合作因應之道。此外，安倍也將正式向中國表達終止對中國的政府開發協助（ODA），讓中日關係提升到新階段。

日本至今對中國實施 ODA 約 40 年，支援金額約 3 兆 6000 億日圓（約新台幣一兆元）。日本政府認為，今後中日將基於對等立場，以新的合作方式討論並建立「開發合作對話」，聯手支援開發中國家。具體的合作方案，有待討論。

出處：中央通訊社 2018 年 10 月 24 日報導

第三題：請以「日本と台湾との関係について」為題，撰寫 500 字以內文章乙篇(40%)



備

註

- 一、作答於試題上者，不予計分。
- 二、試題請隨卷繳交。